

図4 作成した対流モデル図。(オンラインカラー)

以上の区間の温度分布と逆転した温度分布となっていると考えられます。実験結果と考察をまとめて、温度ごとに色を決めて、対流を色の違いで表したものが図4の対流モデル図です。私たちは、今回行った実験だけでは作成した対流モデル図の正しさを裏付けることができないと考えたので、裏付けるために必要な実験を行っていく予定です。また、発表の際に教授から「実際に起こっている対流の動きを見るために、インクなどを用いて可視化するべきだ。」という意見を頂きました。この意見を受けて、私たちは可視化することについても前向きに検討しています。まず、使用できる物質を調

べ、どのように実験していくかについて考えていこうと思いましたが、私たちにとって今回の発表は初めてでしたが、大学生の方や教授など、多くの方々に聞いていただき、様々な意見を得られ、とても有意義な、良い経験になりました。

文 献

- (1) 実教出版編修部：サイエンスビューー化学総合資料第4版：実教出版，(2018).
(2021年11月24日受理)[doi:10.2320/materia.61.170]
(連絡先：〒545-0005 大阪市阿倍野区三明町 2-4-23)



～美しい金属の写真～

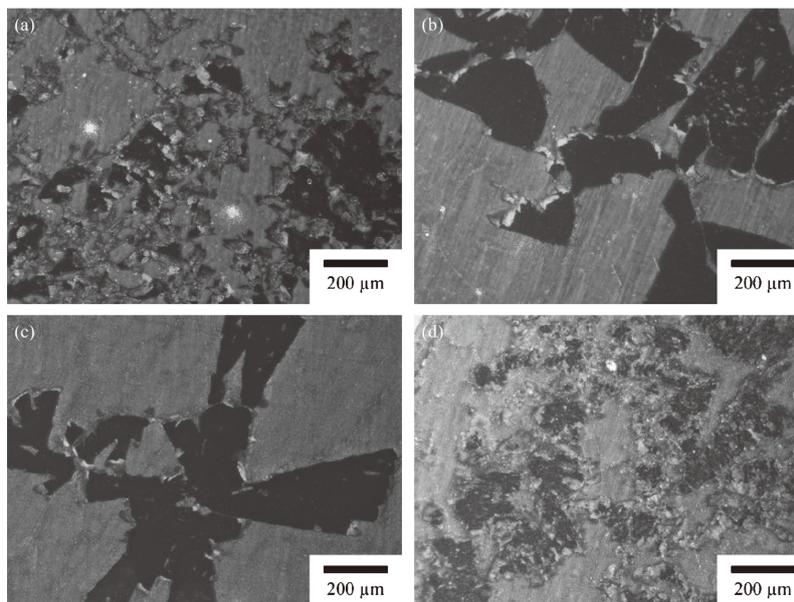


Fig. 4 Microstructures of Mg-14 mass% Li-x mass% Al alloys after immersion test for 30 min. (a) Mg-14Li-1Al and (b) Mg-14Li-2Al, (c) Mg-14Li-3Al and (d) Mg-14Li-5Al.

<Taiki Morishige, Yutaro Obata, Takayuki Goto, Tomoki Fukagawa, Eiji Nakamura and Toshihide Takenaka “Effect of Al Composition on the Corrosion Resistance of Mg-14 mass% Li System Alloy” Mater. Trans., **57** (2016), 1853-1856 より転載>